

経済マンスリー [原油]

シェールオイル生産増加が米国の産油量を押し上げ

原油価格（WTI 期近物）は 9 月中旬以降、横這い圏内で推移してきたが、足元で下げ足を速めている（第 1 図）。9 月 14 日には、米連邦準備制度理事会（FRB）の追加金融緩和を受けて需要増加期待が高まったことから、原油価格は 99.00 ドルと 5 月以来の高値をつけたが、その後、米国の戦略備蓄の放出観測やサウジアラビア増産の報道等を受けて下落に転じた。10 月に入り、欧州や中国経済の先行き懸念、中東情勢緊迫化による供給不安など強弱両方の材料が意識される中、原油価格は 92 ドル近辺で推移してきた。しかし、欧州債務問題への懸念や米国の原油在庫増加を受けて原油価格は下落し、足元では 85 ドル台～86 ドル台と 3 ヶ月半振りの安値となっている。

10 月初め、日本で初めてシェールオイル（頁岩（＝けつがん）に含まれる原油）が秋田県の鮎川油ガス田で採掘されたニュースは記憶に新しいが、既に米国ではシェールオイルの生産増加が続いており、注目が集まっている。

2008 年頃から、技術進歩に伴いシェールガスの生産が増加したが、同じ技術で採掘でき、シェールガスより価格が高いシェールオイルの生産も増加するようになった。米国の原油生産量は 80 年代半ば以降減少が続いてきたが、シェールオイルの生産増加に伴い、2009 年から増加に転じている（第 2 図）。特に、大きい鉱区を抱えるノースダコタ州やテキサス州では、シェールオイルの増産により原油生産量が大幅に拡大している。

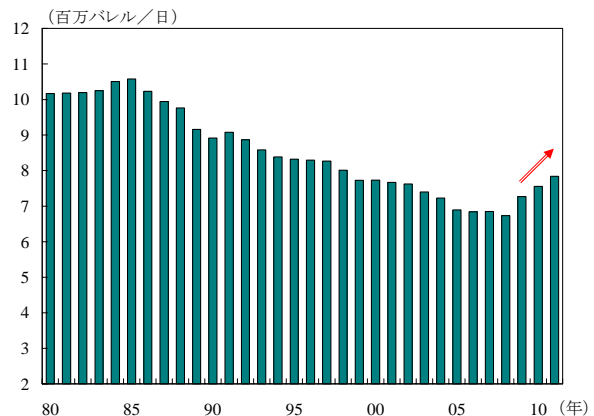
米エネルギー省によれば、シェールオイルの生産量は 2011 年の日量 55 万バレルから 2035 年に同 123 万バレルとほぼ倍増し、これに伴い原油輸入量は減少する見通しだ。採掘に伴う水質汚染等の環境問題が懸念されており、対策次第では今後の生産増加ペースが変化するおそれもあるが、エネルギー資源の確保だけでなく、雇用創出や石油輸入依存度の低下、米国の対外的地位の変化等、シェールオイル増産による影響は各方面にわたるとみられ、今後も目が離せない。

第1図：原油価格（WTI期近物）の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：米国の原油生産量の推移



(資料) BP社資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko_ishimaru@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。